

## 2025年度 日本地域福祉学会事業報告

2025年度は、本学会が2026年度に迎える創立40周年に向けて、これまでの地域福祉研究と実践の蓄積を振り返りつつ、今後の学会活動の発展に向けた準備を進める年となった。学会運営においては、オンラインを活用した効率的な会議運営を継続しながら、研究活動や会員間の交流の充実を図るとともに、周年事業や出版企画などの準備を進めた。

まず、第39回大会は、武庫川女子大学を会場として開催され、多くの研究発表と活発な議論が行われた。大会の開催にあたり、ご尽力いただいた実行委員会および関係者の皆様に心より感謝申し上げたい。また、第40回記念大会（岩手県）の開催に向けて準備を進めるとともに、第41回大会（山口県）の開催に向けた準備にも着手した。

研究活動については、「地域福祉アーカイブ研究」「地域福祉と全世代型包括的支援システム研究」「地域福祉実践研究」の3つの研究プロジェクトを中心に研究を推進した。「地域福祉実践研究」の成果は、学会40周年事業の一環として出版企画に結実し、地域福祉研究のこれまでの歩みと今後の課題を示すものとして出版の予定である。

また、地方部会の活動の活性化を図るため、地方部会懇談会をオンラインで開催し、各部会の取組や課題の共有を行った。各地方部会では研究会や学習会などが実施され、地域福祉に関する理論的・実践的研究の発展が図られている。

さらに、地域福祉優秀実践賞の選考を実施し、各地で先駆的な実践に取り組む団体を顕彰した。本学会は、地域福祉の実践と研究を結びつける学術団体として、こうした実践から学び、その成果を広く共有していく役割を果たしていきたい。

その他、学会機関誌の刊行、ホームページを通じた情報発信、国内外の関連学会との研究交流など、学会活動の充実を図った。以下の通り、本年度も多くの事業を実施することができたことについて、会員の皆様ならびに関係各位のご協力に心より感謝申し上げたい。

### 1. 日本地域福祉学会大会（第39回大会）および総会の開催

日本地域福祉学会第39回大会が、2025年6月28日（土）、6月29日（日）に武庫川女子大学（兵庫県）において開催された。参加者857名。また、同時に、学会総会

を6月28日（土）に開催し参加者総数121名であった。研究発表本数については、口頭発表 105件 ポスター発表 24件 計129件の発表があった。年々ポスター発表が増加傾向にある。

第40回記念大会（岩手県）の開催に向けて、現地実行委員会とともに準備を進めた。また第41回大会（山口県）の開催に向けて準備に着手する。

## 2. 周年事業の実施

- ・40周年の周年事業として、実践研究プロジェクトを中心とする出版企画を推進させた。6月に開催される第40回記念大会までに出版し、会員に郵送完了するよう、準備を進めた。

- ・HPに40周年特設サイトを設定し、地域福祉学会の実践・研究の発展に寄与してこられた会員による寄稿のリレー連載を九州沖縄部会よりスタートし、順次掲載を進めた。連載第1回は阿部志郎先生のインタビュー内容の紹介記事を掲載し、以降毎月8つの地方部会より研究者・実践者各1名ずつのリレーエッセイを掲載した。5月最終回に、周年事業に携わった研究者・実践者のエッセイ及び書籍紹介を掲載した。

## 3. 地域福祉に関する理論的・実践的研究活動の拡充

### 1) 「地域福祉アーカイブ研究」（研究代表：菱沼）

アーカイブ研究として研究会を再組織化し、阿部志郎先生 岡本栄一先生 和田敏明先生 大橋謙策先生へのインタビューを順に進め、内容について取りまとめ、公表に向けて研究を推進した。

### 2) 「地域福祉と全世代型包括的支援システム研究」（研究代表：宮城）

全世代型包括的支援システム構築のあり方や課題について探求するとともに、そのシステムにおける地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の機能と新たに必要とされるプログラムの内容と開発方法について共同研究を進め成果についてまとめ、2026年5月明石書店より出版した。

### 3) 「地域福祉実践研究」（研究代表：藤井・永田）

本会のこれまでの「地域福祉領域の実践研究」の蓄積を総括し、今後の地域福祉実践研究を豊富化することを目的として研究を推進した。40周年事業として、2026年6月CLCより出版した。

### 4) 地域統合ケアに向けた仕組みと実践論に関する日韓共同研究

- ・研究体制：日本側 10名、韓国側 4名、

【日本】：李省翰、呉世雄、小松理佐子、斉藤弥生、柴田学、崔恩熙、

橋川健祐、羅珉京、渡辺裕一、川村岳人

【韓国】：李・オンサン、金・ジェヨン、申・スギョン、柳・エジョン

・研究テーマ： 地域統合ケアに向けた仕組みと実践論に関する日韓共同研究(仮)

サブテーマ：①制度・政策、②住民参加、③連携・協働、④ICT・デジタル化

・研究期間：2025年5月～2027年4月

#### 4. 出版事業

- 1) 学会機関誌『日本の地域福祉』を年1回刊行し、会員の研究発表の機会を充実するとともに、掲載論文の理論的・実証的研究の水準を高めた。
- 2) 学会機関誌『地域福祉実践研究』を年1回刊行し、会員の地域福祉実践への関心を高めるとともに、その実践研究の水準を高めた。
- 3) 「学会ニュース」を年2回刊行し、ホームページ上で発信するとともに情報発信等を拡充した。
- 4) 「日本の地域福祉」「地域福祉実践研究」のバックナンバーの J-STAGE への掲載について順次進めた。
- 5) 40周年事業の書籍を出版した（前掲）

#### 5. 地方部会の組織強化と研究活動の活性化

- 1) 地方部会の活性化にむけた協議を図るとともに、都道府県単位の活動または複数県にまたがる研究会活動を活性化した。
- 2) 地方部会間の連携や情報交換を目的に、地方委員、地方部会担当理事、役員による「地方部会懇談会」をオンラインで年2回程度開催した。地方部会懇談会を中心に地方部会担当理事と地方委員の連携を密にし、地方研究会、部会別地域福祉学会研究大会、シンポジウム、研修会などを活発に推進した。

第1回 2025年9月19日（金）19：00～ Zoomにて開催

参加者：地方担当理事・地方委員 46名

第2回 2026年3月13日（金）19：00～ Zoomにて開催

参加者：地方担当理事・地方委員 42名

- 3) 地方部会の後援で、会員に加え非会員の研究者や専門職、地域での実践者なども交えた「学習会」（研究活動）を推進した。学会からはその活性化のための助成を行った。

## <地方部会活動状況>

### ■ 北海道部会

#### ・第1回定例研究会

開催日 2025年9月25日(木)15:00～17:00

テーマ 包括的な支援体制を理解するための4つのキーワード

講師 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 主任研究員 齋木由利 氏

開催形態 オンライン開催 参加者 82名

#### ・第2回定例研究会

開催日 2025年10月22日(水)15:00～17:00

テーマ 包括的な支援体制に向けた3つの要素地域福祉の基盤づくり

講師 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 主任研究員 齋木由利 氏

開催形態 オンライン開催

参加者 82名

#### ・全道研究大会

開催日 2025年2月15日(日)10:00～17:00

テーマ 北海道における包括的な支援体制

—地位福祉実践を基盤とした体制構築を目指して—

講演 菱沼幹男氏 日本社会事業大学 教授

シンポジウム 地域福祉実践を基盤にした北海道内の多様な実践

シンポジスト

北星学園大学 社会福祉学部 教授 松岡 是伸 氏

旭川市社会福祉協議会地域共生課 課長補佐(統括支援員) 柴田 淳 氏

社会福祉法人津別町社会福祉協議会 地域福祉係 係長 立花 さおり 氏

コーディネーター

忍 正人(旭川市立大学/北海道地域福祉学会 会長)

コメンテーター 菱沼幹男氏

参加者 対面 25名 オンライン 12名(うち団体1) 計 37名

### ■ 東北部会

#### ・地域福祉セミナー

開催日 令和7(2026)年3月7日(土)13:30～16:30

会場:岩手県立大学アイーナキャンパス 第1学習室

論点整理 「地域福祉実践研究の論点整理」

淑徳大学総合福祉学部 教授 菅野道生 氏

シンポジウム

「実践研究での実践者と研究者との協働—実践と研究との結びつき」

- 1 「盛岡市社協における地域福祉実践の可視化」  
佐々木裕美氏(盛岡市社会福祉協議会地域福祉課 副主幹)  
平坂義則氏(岩手県立大学社会福祉学部 准教授)
- 2 「らくせいホール協議会設立前後での協働—『主体形成』を意図した地域福祉実践と研究」  
志田信也氏(楽聖会理事兼管理者)  
佐藤哲郎(岩手県立大学社会福祉学部 教授)  
コーディネーター. 菅野道生氏(淑徳大学総合福祉学部 教授)  
参加者 46 名(現地参加・オンライン参加)

#### ■ 関東甲信越静部会

- ・「地域福祉とアートの連携から「参加支援」を問い直す」  
開催日 2026 年 2 月 22 日(日)  
会場 立教大学池袋キャンパス  
基調講演 宮城孝氏(法政大学)  
「地域福祉における社会的包摂と「参加支援」を問う」  
シンポジウム  
堀崇樹氏(足立区社会福祉協議会)  
松崎亮氏(三股町社会福祉協議会)  
吉田武司氏(東京藝術大学国際芸術創造研究科)  
小野田由実子氏(立教大学)  
参加者 55 名

#### ■ 東海北陸部会

- ・地域福祉実践研究フォーラム2025 in ふくい  
開催日 令和7年12月6日(土)～7日(日)  
会場 福井県国際交流会館  
テーマ 「ともに」を深掘りする  
ワークショップ:「ともに」の深掘り 1 「ともに」の成因・要因の構造化  
実践報告:共生を意図した4実践からの学び  
総括講演 「『ともに』を深掘りする」  
原田正樹東海北陸地方部会担当理事(日本福祉大学学長)  
参加者数 50名(県内40名/県外10名)
- ・第1回三重県地域福祉研究会  
開催日 令和7年7月12日(土)15:00～16:30  
会場 三重県社会福社会館 研修室

テーマ 「地域福祉に活用できそうなデータにアクセスしてみよう！」

講師: 関西福祉科学大学 社会福祉学部 講師 竹内友章氏

・ 第2回三重県地域福祉研究会

開催日 令和7年12月13日(土)15:00～17:00

会場 三重県社会福祉会館 研修室

テーマ 「福祉×AI:技術で支える、心でつなぐ」

講師: 皇學館大学 現代日本社会学部 准教授 大井智香子氏

・ 東海北陸ブロック「研究会 in 愛知 2025」

開催日 2026年2月11日(水)13:00～16:30

会場 金城学院大学 ※オンライン(Zoom)とのハイブリッド開催

テーマ 「過疎化が進む地域における地域福祉と地域経済の連関を考える」

報告1: 「過疎化が進む地域における障害者の仕事づくりの実践～地域の課題や困りごとをしごとにする～」

NPO 法人みち 代表理事 今枝 美恵子氏

報告2: 「地域福祉活動における地域電力会社の可能性～地域経済の漏れを防ぎ地域福祉との循環関係を築く鍵～」

株式会社三河の山里コミュニティパワー経営企画室 鈴木雄也氏

エネルギー事業部 梅原彰氏

パネルディスカッション

事例報告者

コメンテーター 関西学院大学人間福祉学部准教授 柴田学氏

コーディネーター 金城学院大学人間科学部准教授 橋川健祐氏

■ 近畿部会

・ 第37回近畿地域福祉学会 滋賀大会

開催日 令和7年(2025年)12月20日(土) 10:00～17:00

会場 ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター 大会議室等

テーマ 「だれもが 尊ばれる地域福祉の展開 ～子ども・若者に視点をおいて～」

(1) 午前の部(自由研究発表・実践報告) 10:00～12:05

(2) 午後の部(基調講演・パネルディスカッション) 13:30～17:00

基調講演

地域福祉の展開 尊ぶ、対話の大切さ-デンマークの実践を交えて-

講師 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部

生活環境学科 教授 酒井 久美子氏

パネルディスカッション

だれもが尊ばれる地域福祉の展開～実践者とともに学び合う～

## パネリスト

特別養護老人ホーム真野しょうぶ苑 施設長 湯浅 潤一 氏  
真野地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員 井上 千浪 氏  
ホットフィールド 子ども・若者支援ヒューマンネット  
かんちゃんの小さな家 運営スタッフ 平田 イヴィ 氏  
滋賀県社会福祉協議会 つながり若者センター  
相談支援コーディネーター 九鬼 良 氏

## コーディネーター

龍谷大学 社会学部 非常勤講師 金子 秀明 氏

## ■ 中国部会

### ・ブロックセミナー

開催日 令和8年2月28日(土) 14:00～16:15

会場 安来市アルテピア

講演「地域みんなで10年後も“えーひだ”な地域づくり」

えーひだカンパニー株式会社 取締役兼ひだキッチン部長 田邊裕子

### 実践報告

#### 1 「労働者協同組合における地域福祉活動の実践」

(奥出雲町)労働者協同組合 33 代表 和久利 健 氏

#### 2 地域住民による地域福祉活動の実践(30分)

荒島地区生活支援協議体「未来あらしま」代表 勝部 幸治 氏

## ■ 四国部会

### ・令和7 年度第22 回四国地域福祉実践セミナーin高知・黒潮

開催日 令和7 年7 月12 日(土) 12:30～17:15

令和7 年7 月13 日(日) 9:00～12:15

会場 ふるさと総合センター(大ホール)

### 【1日目】

#### シンポジウム

防災×福祉のまち黒潮町の人づくり、地域づくり

#### シンポジスト

黒潮町町長 大西勝也氏

特定非営利活動法人しいのみ事務局長 濱村美香氏

社会福祉法人黒潮町社会福祉協議会会長 坂本あや氏

地域福祉実践報告(おらんくセッション) つながりの再構築

#### コーディネーター

特定非営利活動法人日本地域福祉研究所顧問 大橋謙策氏

## 地域福祉実践報告

### 【2日目】

#### 地域福祉実践報告（おらんくセッション）

船頭 日本地域福祉学会四国地方委員西内章氏（高知県立大学社会福祉学部社会福祉学科教授）

実践報告者「農福連携を通じた生きづらさを感じる人達のサポートや就労支援」

特定非営利活動法人こうち絆ファーム

障害者就業・生活支援センターきずな主任就業支援員 高見光男氏

土佐清水市民生委員児童委員協議会主任児童委員 酒井史氏

社会福祉法人土佐清水市社会福祉協議会 事務局長 伊勢脇大氏

特定非営利活動法人とかの元気村副理事長

あったかふれあいセンターとかのコーディネーター 森田有紀氏

### ■ 九州沖縄部会

- ・令和7年度 九州ブロック 地域福祉研究会議 【熊本大会】

開催日時 2025年9月 10 日(水)・11 日(木)

会場 ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ

### 【1日目】

基調報告(13:00～13:45)

「ともに生きる豊かな地域社会の実現に向けた社会福祉協議会の役割について  
～社会福祉協議会基本要項 2025” の策定を踏まえて～」

全国社会福祉協議会 地域福祉部

分科会

### 【2日目】

施策の動向( 9:00～10:00)

「地域福祉をめぐる制度・施策の動向について」

厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課

記念講演(10:15～11:40)

「こどもまんなか～「誰かが」ではなく「誰もが」集える居場所へ～」

ふるさと元気子ども食堂 代表/大学生講演家 宮津航一 氏

- ・第8回オープンケアエリアふくおか

開催日時 2025 年 11 月9日 13:00～16:00

会 場 福岡介護福祉専門学校(博多区)

講 話「福祉って、もっと自由でいい。挑戦する 6 法人が描く、福祉の未来」

社会福祉連携推進法人ジョイント&リップル・熊本市 木村准治氏

学生代表による活動・研究報告

西南学院大学、筑紫女学園大学、熊本学園大学

福祉実践者と学生との対話(グループに分かれて)

## 6. 日本地域福祉学会地域福祉優秀実践賞

第23回「日本地域福祉学会 地域福祉優秀実践賞」の募集および選考を実施した。各地の優れた実践を掘り起こし、当該の実践から学び、広く普及していくために地方部会、全国社会福祉協議会とも協力して実施した。応募団体計6団体のうち、結果以下の1団体が受賞となった

受賞団体：NPO 法人しっきーず

## 7. 学会運営について

1) 理事会等の諸会議については原則、オンラインを活用した方法で実施し、会議の活性化を図るとともに、必要な事項に関しては随時協議の場を設けた。

<運営委員会日程予定>

第1回 2025年5月24日(土)18:30-21:00 【Zoom】

第2回 2025年9月27日(土)18:30-21:00 【Zoom】

第3回 2026年2月28日(土)13:00-16:00 運営委員会 【対面】

<理事会日程予定>

第1回(第167回) 2025年6月20日(金)19:00-21:00 【Zoom】

第2回(第168回) 2025年10月24日(金)19:00-21:00 【Zoom】

第3回(第169回) 2026年3月27日(金)18:30-20:30 【Zoom】

<地方部会日程予定>

第1回 2025年9月19日(金) 19:00~21:00 【Zoom】

第2回 2026年3月13日(金) 19:00~21:00 【Zoom】

## 8. 団体会員制度の推進・会員拡大に向けて

地域福祉研究・実践の推進と会員の拡大を目的に、団体会員制度の周知を進め、団体会員の拡大をはかった。研究者、社協職員はもとより、行政や社会福祉法人(施設)及びNPO法人などにも働きかけて、会員の拡大と地方部会を通しての組織化に取り組んだ。また研究者番号を有する会員を獲得していくための方策を検討した。

## 9. 韓国地域社会福祉学会との研究交流

2023年に更新した「研究交流の推進に関する覚書」に基づき、韓国地域社会福祉学会との研究交流を進めた。学会間の共同研究についても検討し研究組織を編成し、日韓共同研究会を開催した。

#### **10. 役員選挙の実施**

役員改選の年度にあたり、選挙管理委員会を組織し役員選挙を実施した。当選理事・推薦理事を慎重に協議の上、決定し第14期役員体制を決定した。

#### **11. 他団体との連携と協力**

日本学術会議、日本社会福祉系学会連合、社会政策関連学会協議会、ソーシャルケアサービス研究協議会などの関連団体と連携し、その事業・活動に協力した。

以 上